

## BEST AVAILABLE COPY



Japanese Utility Model Laid-Open Publication No. 53-63322

Laid-Open Date: May 29, 1978

Japanese Utility Model Application No. 51-144698

Filing Date : October 29, 1976

Inventor : Shiro Aoki

Applicant: Kyodo Insatsu Kabushiki Kaisha

### OPENING AND CLOSING STRUCTURE OF CONTAINER LID

Reference B denotes a cover. The cover B includes: a top face 7 folded along a folding line 15a arranged at an upper edge of a back face 2; a front face 8; side cover pieces 9; and hinge portions 3 for opening and closing the cover as described later. 15b, 15c, and 15d denote folding lines.

The above hinge portion 3 is connected to the above side cover piece 9 and a side wall 4a or 4b at both side edges, and are also connected to the top face 7 at a lower edge. Perforation 11 is formed at a position dividing a bending piece 10 having a shape of an isosceles triangle into two. The bending piece 10 is obtained by forming a notch portion in an upper part of the hinge portion 3. The perforation 11 guides a bending operation, so that the bending piece 10 is bent in a correct manner. A fixing piece 12 is bonded to an adjacent one of the divided two parts of the bending piece 10 via perforation 13.

The invention having the aforementioned structure has a feature that opening and closing of the lid is performed by the hinge portion 3 that is arranged to bond the fixing piece 12 to the bending piece 10 corresponding to that fixing piece 12, especially that the hinge portion 3 is arranged to have a function of a stopper for preventing the cover B from being opened beyond 90 degrees when the cover B is opened.

⑬日本国特許庁  
公開実用新案公報

⑭実用新案出願公開  
昭53—63322

⑮Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 65 D 5/08  
B 65 D 5/66

識別記号

⑯日本分類  
132 C 03  
132 C 12

庁内整理番号  
6656—38  
6656—38

⑰公開 昭和53年(1978)5月29日

審査請求 有

(全 2 頁)

⑱容器の開閉蓋機構

東京都練馬区桜台 3 丁目46番

⑲出 願 人 共同印刷株式会社

東京都文京区小石川 4 丁目14番  
12号

⑳実 願 昭51—144698

㉑出 願 昭51(1976)10月29日

㉒考 案 者 青木士郎

㉓代 理 人 弁理士 安達信安

㉔実用新案登録請求の範囲

背面部 2 上縁の折目 15 a , 15 c を経て形成せる頂面部 7、前面部 8、側蓋片 9 およびヒンジ部 3 にて組成される覆蓋部 B が、容器本体 A の開口面に対し、常に 90 度を越えることなく開蓋するよう、前記ヒンジ部 3 について、上部に切欠部分を形成することにより二等辺三角形形状の屈曲片 10 となし、それが二分する位置で屈曲するようなしたミシン目 11 を設け、ミシン目 13 を介し固着片 12 が前記屈曲片 10 を二分しかつ隣接する部位において接着させてなる容器の開閉蓋機構。

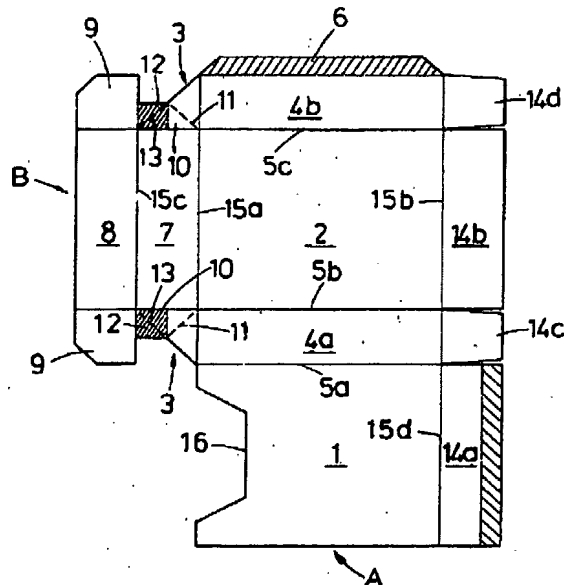
図面の簡単な説明

図面は本考案に係る容器の開閉蓋機構の実施例

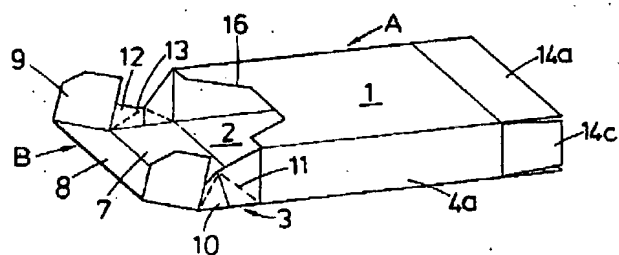
を示し、第 1 図はその展開平面図、第 2 図は組成途上を説明する斜視図、第 3 図 a および b はそれぞれ開閉蓋時の斜視図、第 4 図および第 5 図はそれぞれ既知の紙器における蓋体の掛止機構に関する説明図である。

A…容器本体、B…覆蓋部、1…表面部、2…背面部、3…ヒンジ部、4 a , 4 b …側壁部、5 a , 5 b , 5 c , 15 a , 15 b , 15 c , 15 d …折目、6…貼着部、7…頂面部、8…前面部、9…側蓋片、10…屈曲片、11 , 13 …ミシン目、12…固着片、14 a , 14 b …底部、14 c , 14 d …補助底部。

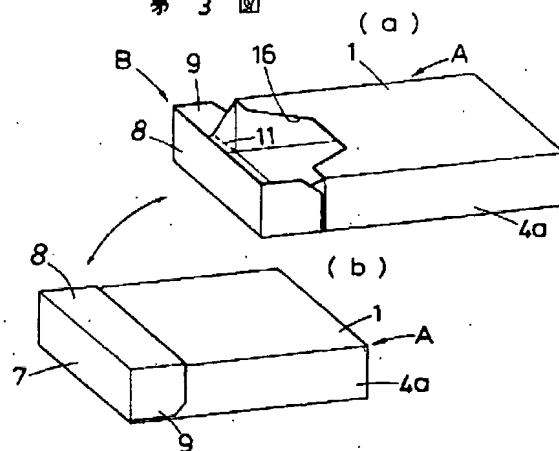
第 1 図



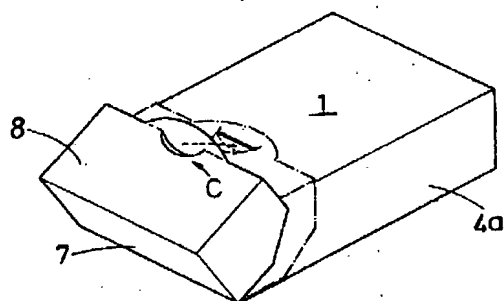
2



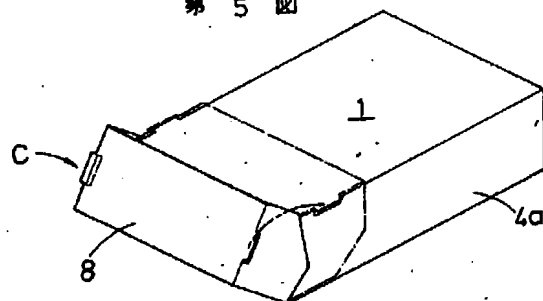
第 3 回

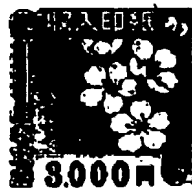


第 4 回



第 5 図





(3,000円)

## 実用新案登録願(1)

昭和51年10月29日

特許庁長官 片山石郎 殿

1. 考案の名称 ヲウキ カイヘイガイキコウ  
容器の開閉蓋機構

2. 考案者

住所 ネリマ クサクラダイ  
東京都練馬区桜台3丁目46番

氏名 アオキ シロウ  
青木 士郎

3. 実用新案登録出願人

住所 プンキョウコイレカワ  
東京都文京区小石川4丁目14番12号

氏名 共同印刷株式会社  
代表者 大橋 貞雄

4. 代理人 千102

住所 東京都千代田区五番町2番地4  
カサ・ド・タク60C号

氏名 (6437) 弁理士 安達信安  
TEL 03 (262) 0720

5. 添付書類の目録

- (1) 明細書 1通
- (3) 願書副本 1通
- (5) 出願審査請求書 1通



- (2) 図面 1通
- (4) 委任状 1通

53-63322

51 144698

方式  
審査



## 明 細 書

### 1. 考案の名称

#### 容器の開閉蓋機構

### 2. 実用新案登録請求の範囲

背面部(2)上縁の折目(15a)、(15c)を経て形成せる頂面部(7)、前面部(8)、側蓋片(9)およびヒンジ部(3)にて組成される覆蓋部(B)が、容器本体(A)の開口面に対し、常に90度を越えることなく開蓋するよう、前記ヒンジ部(3)について、上部に切欠部分を形成することにより二等辺三角形形状の屈曲片(10)となし、それが二分する位置で屈曲するようなしたミシン目(11)を設け、ミシン目(13)を介し固着片(12)が前記屈曲片(10)を二分しかつ隣接する部位において接着させてなる容器の開閉蓋機構。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は、主として粒状内容物、例えばドロップ、チョコレートのごとき洋菓子、錠剤タイプの医薬品等の包装用容器、特にその紙器に

ついて、振出し機能の向上に資するよう配慮したことに特徴のある容器の開閉蓋機構に関する提案を目的とするものである。

近年、商品の保護保存の目的のほか、商品を魅力的にするために、包装形態の中でも、容器、特に紙器については数多くの提案がなされて来たが、例えば、蓋体と紙器本体とが連続するフリップ・トップ・ボックスとも称されて、外国タバコの多くに使用され、また国内商品でも細長な板状タイプのチョコレートの包装に使用されている紙器のように、包装の豪華さを強調するとともに、防湿、保香性等について配慮し、外装にセロファン・シールを施すことによってその効果を果すことが企図されている。

しかしながら、上記した紙器も、いったん開蓋後は、蓋体が紙器本体に対し任意角度に屈曲し、その屈曲度合について全く規制処置を施していないため、内容品、例えば上記した粒状物たるドロップとか錠剤を振出した場合、時には所望量以上が紙器本体より排出され、90度以

上に開蓋した蓋体は何等その受け止めには特段の機能を発揮することもない関係から、手の掌ですべてを受ける以外になく、その結果、衛生的に難点があるだけでなく、しばしば、内容品を落下、散乱し無駄にすること等があり、殊に幼児等の取扱い動作に注目すると、そのようなことは多く見聞するところであった。

本考案は、上記した紙器の問題点を解決するものであり、在来のサック・カートンと比較し、一動作で開蓋でき、しかも開蓋時には定位置としての90度の開蓋姿勢を常に期待できるものであるため、内容品の落下散乱のごとき事態を防止し、しかも定量振出しの要素も兼ねているものである。

本考案の構成を図面に従い説明すると、第1図は展開平面図、第2図は組成途上を説明する斜視図、第3図(a)および(b)はそれぞれ開蓋、閉蓋時の斜視図、第4図および第5図はそれぞれ既知の紙器における蓋体の掛止機構に関する説明図である。

図面上、太線は裁断線、細線は筋押線、破線はミシン線、斜線はノリシロ部分を表わしたものである。

Aは容器本体、1は表面部であり、その側縁沿いの折目5aを経て側壁部4aを設けてある。

2は前記側壁部4a、折目5bを介し連設した背面部であり、その側端には折目5cを経て貼着部6を有する側壁部4bが連設してあって、その貼着部6は前記平面部1側端裏面に接着されることとなるものである。

Bは覆蓋部であって、該覆蓋部Bは背面部2上縁の折目15aを経て形成した頂面部7、前面部8、側蓋片9および後に詳述する蓋の開閉動作を行うヒンジ(ちょうつがい)部3よりなり、15b、15c、15dは折目である。

上記したヒンジ部3は、その両側縁を前記側蓋片9、側壁部4a、4bに、下縁を頂面部7にそれぞれ連設してあり、上部に切欠部分を形成することにより生じた二等辺三角形状の屈曲片10を二分する位置に正しく屈曲が期待され



るようその案内に資するミシン目 11 を施し、また固着片 12 はミシン目 13 を介し前記屈曲片 10 の二分した隣接する部位に接着されてなるものである。

図中、14a、14b は表面部 1、背面部 2 下縁にそれぞれ連設せる底部であり、14c、14d は側壁部 4a、4b 下縁にそれぞれ連設せる補助底部である。また 16 は表面部 1 の上縁に必要により附設した内容品を取り出し易くした切込み窓である。

本考案の組成上、従来のいわゆるサック・カートンの場合と同様に、前記貼着部 6 についてはあらかじめ対応する表面部 1 側縁裏面に接着しておき、既知の製函機をもって前記固着片 12 を屈曲片 10 の対面位置に、例えば既知のホットメルト接着剤にて接着すればよく、また底部 14a、14b、補助底部 14c、14d は既知のシール・カートンの場合と同じように、ホットメルト接着を施し封函されるものである。

上記の構成を有する本考案は、固着片 12 を

それと対応する屈曲片10に接着するようとしたヒンジ部3により、蓋の開閉動作が行われ、特に覆蓋部Bが開蓋時に90度を越えて拡開しないようストッパの役割を果たす構成となした点に特徴のあるものである。

なお、覆蓋部Bの容器本体Aへの覆装は、第4図、第5図に例示した既知の掛止機構<sup>C</sup>を利用することもよい。

1字加入

以上の構成を有する本考案は、次のとおりの効果をもたらすものである。

すなわち、本考案によれば、覆蓋部Bを開蓋した場合（第3図（a）参照）、その頂面部7、前面部8および側蓋片9によって“囲い”の形態を呈し、振出された粒状物のごとき内容品は、いったんその“囲い”部分に受けとめる（せき止める）状態となるので、決して外部に落下、散乱させるといようなおそれのないものである。

従って、使用者は、振出した“囲い”の中の内容品のうち、必要量だけが無駄なく取り出す

ことができ、残量については再び手際よく容器  
本体 A 内部に戻すことが可能である。

以上のとおり、本考案はまことに簡易な構成  
にして量産に適し、実用性に富むものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

図面は本考案に係る容器の開閉蓋機構の実  
施例を示し、第 1 図はその展開平面図、第 2 図  
は組成途上を説明する斜視図、第 3 図 (a) およ  
び (b) はそれぞれ開閉蓋時の斜視図、第 4 図お  
よび第 5 図はそれぞれ既知の紙器における蓋体  
の掛止機構に関する説明図である。

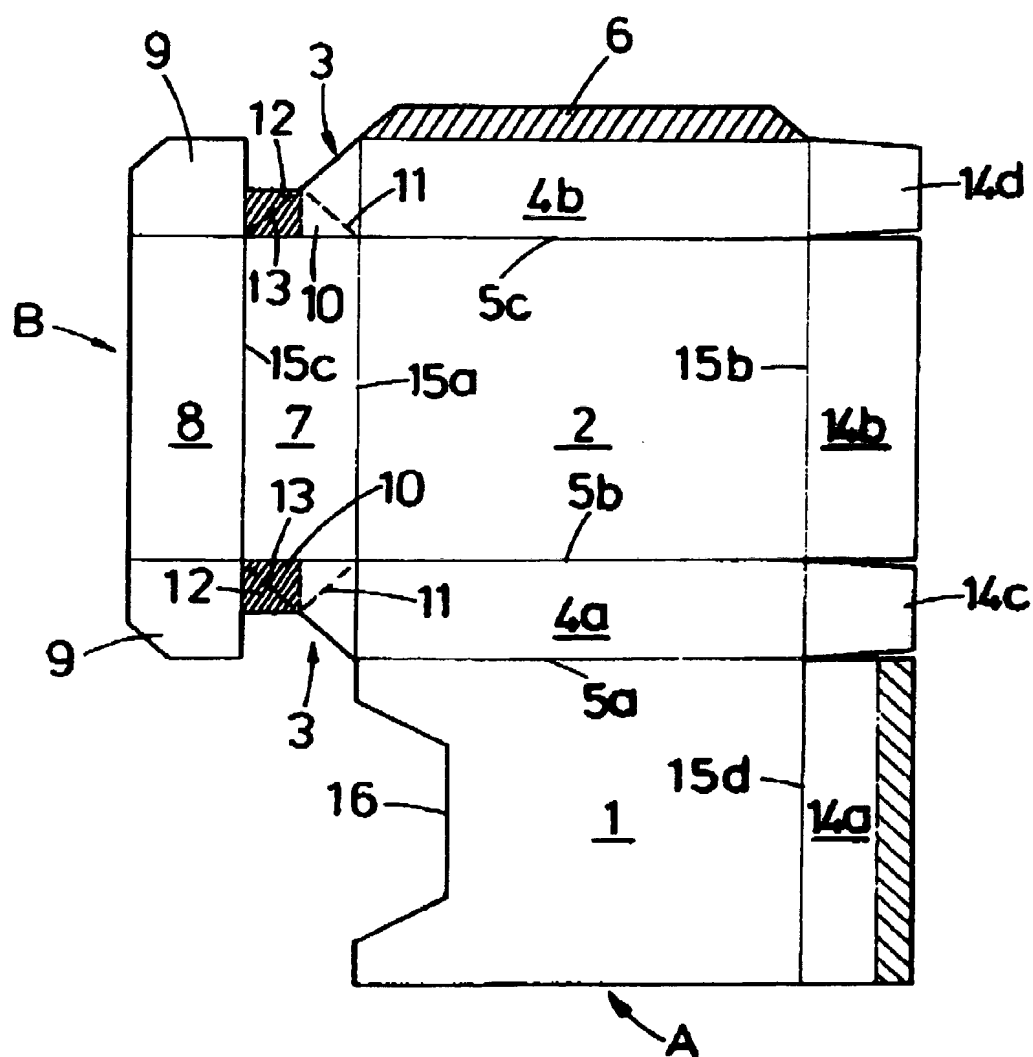
A … 容器本体、B … 覆蓋部、1 … 表面部、2 …  
背面部、3 … ヒンジ部、4 a、4 b … 側壁部、5 a  
5 b、5 c、15 a、15 b、15 c、15 d … 折目、6 …  
貼着部、7 … 頂面部、8 … 前面部、9 … 側蓋片、  
10 … 屈曲片、11、13 … ミシン目、12 … 固着  
片、14 a、14 b … 底部、14 c、14 d … 補助底部。

代理人の氏名

弁理士 安 達 信 安



第 1 図

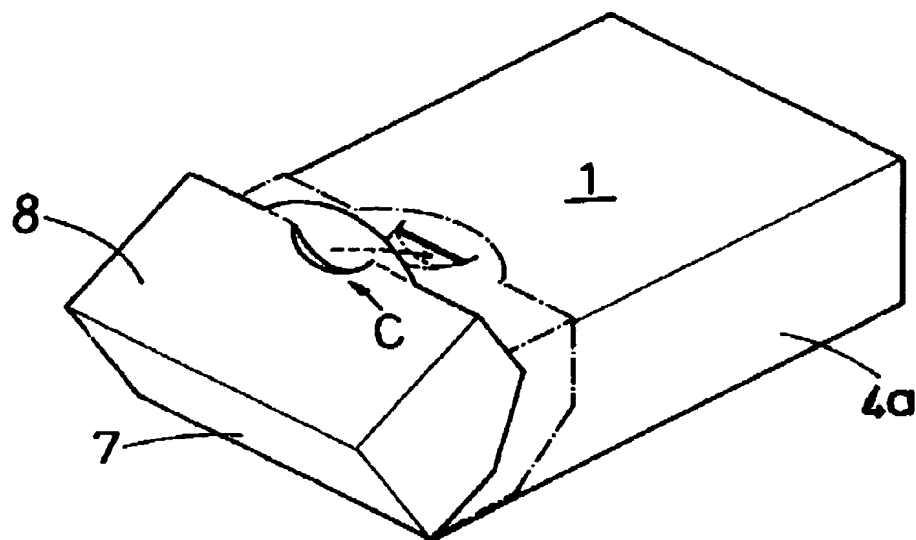


63322  $\frac{1}{3}$

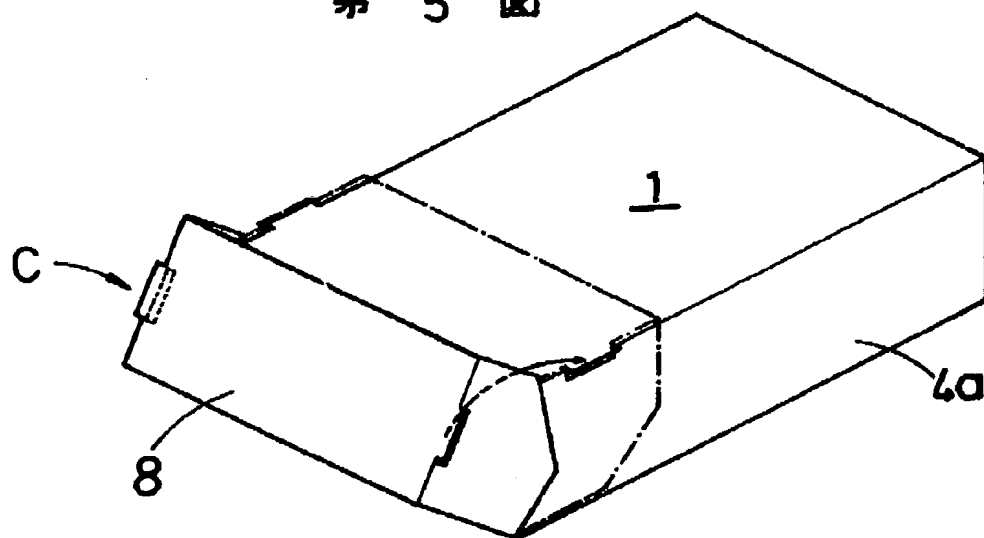
代理人の氏名 弁理士 安達 信安



第 4 図



第 5 図



63322 考

代理人氏名 弁理士 安達信守

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☒ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**